



誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校  
～全ての子どもに居場所がある学校づくり～  
～学校だより 冬休み号 巻頭言として～

令和7年12月23日(火)  
発行：摂津市立別府小学校  
校長 河平 浩一

～二学期、そして今年一年お疲れさまでした。ありがとうございました～

学校生活の中でも長いと言われている二学期が終わります。そして、令和七年(2025年)も、もう終わろうとしています。一年が過ぎ去るのが本当にあっという間だったように感じます。

この四月に別府小学校の校長として着任し、はや九か月が経ちました。無事に二学期を終え、新しい一年を迎えることができるのも、日頃から子どもたちのことを大切に支えてくださり、本校の教育活動にご理解とご協力をいただいている保護者の皆様、そして地域の皆様のお力添えがあってこそだと感じています。心より感謝申し上げます。

さて、本校では「誰もが楽しく幸せに過ごせる学校」、そして「すべての子どもに居場所がある学校づくり」を教育目標に掲げ、日々の教育活動に取り組んできました。二学期を振り返ると、子どもたちの成長を数多く感じる事ができ、子どもたちの笑顔に出会う場面が、これまで以上に増えたことを強く実感しています。

学習の場面では、多くの子どもたちが真剣に学びに向かう姿を見せてくれました。自分の考えを持ち、友だちと対話しながら学ぶ姿は、学年を問わず、確かな成長を感じさせるものでした。

また、休み時間などの授業以外の時間においても、友だちと安心して過ごす姿や、教室や校内のさまざまな場所でほっとした表情を見せる姿が、日常の風景となってきたように感じています。

さらに、子どもたち自身が学校生活をよりよくしようと考え、行動する姿が多く見られるようになったことも、大きな成長の一つです。運動会での自分たちで考えた振り付けによる団体演技や、20分休みに実施した「全校鬼ごっこ」など、子どもたちの発案・提案による取組が生まれ、「自分たちの学校を自分たちでつくる」という意識が育ってきていることを感じます。

特に、十二月から児童会代表を中心に取り組んだ、児童玄関の開門時間を早める「朝プロジェクト」では、朝の時間にゆとりが生まれ、落ち着いた雰囲気で一日を始められるようになりました。朝、各教室を回って挨拶をすると、元気よく挨拶を返してくれる子どもたちの姿が増え、学校全体が明るい空気に包まれていることを実感しています。



朝の登校の様子

二学期は、私自身も多くの保護者の方と懇談する機会がありました。どの保護者の方も、わが子の成長を願いながら、日々悩み、考えておられることを改めて感じました。学校は、子どもを育てる場であると同時に、保護者の皆様とともに子どもの成長を考え、悩み、そして喜び合える存在でありたいと考えています。

これから迎える冬休みは、日々の忙しさから少し離れ、わが子とゆっくり向き合える貴重な時間でもあります。学校としては、ぜひこの冬休みを通して、二学期の中で見られた子どもたちの頑張りや成長に目を向け、言葉や態度でその思いを伝えていただきたいと願っています。保護者の皆様からのあたたかなまなざしと愛情は、子どもたちにとって何よりの力となります。

この冬休みが、子どもたちにとって心と体を整え、新しい年につながる大切な時間となることを願っています。三学期も、保護者・地域の皆様と手を携えながら、一人ひとりの子どもが安心して自分らしく成長できる学校づくりを進めてまいります。